

令和4年度第2回高知県地域学校協働活動推進委員会 会議要旨

1. 日時 令和5年2月7日（火）9：30～11：30
2. 場所 県庁西庁舎2階教育委員室
3. 出席者 委員7名（3名欠席）、事務局4名 ほか19名
4. 議事 (1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
(2) 協議
テーマ「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて
～学校・地域・家庭の連携に向けた市町村の役割～」

5. 議事概要

委員長の議事進行により、以下の事項について、事務局から説明が行われた。委員からの主な意見等は次のとおり。

(1) 令和4年度実績報告及び令和5年度事業計画について説明

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

（委員）

学校運営協議会制度と地域学校協働本部の事業を一体化しようとしているが、以前は両輪のような連携であった。その際は学校運営協議会制度を実施している学校を愛称としてコミュニティ・スクール（CS）と表現するという考え方だった。今は一体的なので、学校運営協議会と地域学校協働本部を全部まとめてCSという考えだと思っている。コミュニティ・スクールというのは「学校運営協議会と地域学校協働本部が2つの柱になって一体的にやるんだ。」という認識でいるので、先ほどの説明を聞いて、CSと地域学校協働本部を一体的というのはちょっと違うのではないかと思う。CSは学校運営協議会と地域学校協働本部を全部ひっくるめて行うのであり、そのあたりをハッキリしないと一体的に行うことを誤解している方もいる。私が一体的とはどういうことかを話をして理解していただいたこともあるが、その辺りの整理ができていないのではないか。

（委員）

委員が言われたことは前回言わせていただいたが、おそらくこれは一つの課が行わないといけないということを言わせていただいた。

（委員長）

難しい問題だと思うが、そもそも事業は別々に始まった経緯があり、両輪から一輪へ、一体的推進へという風に、十把一絡げに捉えるような方向に動いてきているわけだが、本質的には違う部分があるということ、ある程度連携はあっても、一体化させることに対してはどうなのかということが委員の問題提起か。

（委員）

私が言いたいことは、CSはそもそも、学校運営協議会を行う学校から始まっている。それとは別に、

現在の地域学校協働本部、以前の学校地域支援本部が始まって学校運営協議会とは別個に動いていたのだが、学校では結局一つとして活動していく。だから私はCSと協働本部の両方の書類を書いて2つの活動を一緒に行っていたが、結局、一緒に行ったほうが効率的じゃないかという話が広がってきて、今、国は部署も一つで、一緒に行っている。コミュニティスクールは学校運営協議会だけではなく、地域学校協働本部も含めているという考えが主流だと思う。だが、説明を聞いていると、まだ別個に扱っているようなので、それは違うのではないかという話である。

(生涯学習課)

委員の言われた通りだと考えているが、現実問題、別々の課で担当して行っているということで、我々も先程の説明が十分に至ってないところがあると思う。一体的にという言葉に配慮して行っていくことが、第一歩と考えている。また、文科省の方も、詳細な組み合わせのところがあると思うので、その辺りを確認しながら、今後進めていきたいと考えている。県の組織を直ちに一体化というのは現実的に難しいということをご理解いただければと考えている。

(委員長)

実際に現場では両方一緒になってCSを行っているというのが実情である。

(委員)

来年も研修会等組まれているので、考えていただきたい。本年度、愛媛県のCSの研修会に呼ばれて実践発表させていただいたが、愛媛県は生涯学習課が全部管轄している。CSの研修会だが、分科会が、地域学校協働本部に重きをおく分科会と学校運営協議会に重きをおく分科会と2つに分かれていて、私は学校運営協議会側の実践発表として発表した。このような研修会が主流だと思うが、報告と来年度の計画を見ると、別々になっているので方向が違うのではないかと思った。

(委員長)

学校の現場では既に一体化している部分はあるかと思うが、むしろ、委員の皆さんからのご意見というのは、「学校ではなく、行政こそがもっと所管を一体化していくべき」ということではないかと考えます。後の協議の方では、その辺りが少しアバウトにはなるが、学校現場とともに、市町村の在り方についても協議していくので、了承していただけたらと思う。

(委員)

スクールガードリーダー、学校安全対策の面で気になっている。コロナ禍も終わり、春からマスクを外しての通学が始まり、引きこもりがちな生徒も何かしらの活動を起こし始めるような感覚を肌感覚として持っているが、私よりも学校関係の方、委員の方たちがもっと肌感覚として持っていると思う。春の交通安全もずっと行われているが、もう一段階注意を促すような活動が必要ではないかと、高校生が高校生に切りつけられた事件があった時に少し感じた。コロナが収まり、さらに注意深く配慮していただきたい。また、通常の春の交通安全プラス何かしらの対応というか、そういうことの意識づけをしていただけたら、という希望である。

(学校安全対策課)

全ての解決になるか分からないが、ウィズコロナの状況となる中、そういった事案が発生する可能性が高まるということはあると思う。それも見据えて、見守りの活動の充実については引き続き行うけれども、スクールガードリーダーは、よく地域を知っている警察官OBとか教職員OBだとか、郵便配達員だとか、そんな方々が多いので、犯罪が起こりそうな場所、それから時間帯などのデータ、経験をもっている。持っている経験値を見守りの方々、ボランティアの方々、それから学校の方々に十分情報交換をしながら、あたっていただくという連携体制を中心に活動していく。

(委員長)

資料の4ページ目の高知家の親の育ちを応援する学習プログラムの講座についてお聞きしたいのですが、どういう方々がファシリテーターにいるのか。

(生涯学習課)

参加してくれる方は一般の方から、学校の教諭の方まで、様々な方々に参加していただいでいて、固定化しているわけではない。

(委員)

私はファシリテーターだが、私の場合は、地域子育て支援センターに案内がきた。案内に応募し、研修を受けてファシリテーターになったという経緯である。要請があったらファシリテートしていく。研修を受けた際には、保育士、主婦、アナウンサー、専門職等、様々な方が参加していた。

(委員長)

今日の協議のテーマではないが、以前の推進委員会のなかで、家庭教育との連携であったり、ファシリテーターの方に本部にもっと入ってもらうことができれば、様々な子どもや家庭をめぐる課題解決になるのではないかという意見もあったので、お伺いした。

(2) 協議 テーマ「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて～学校・地域・家庭の連携に向けた市町村の役割～」

学校現場というよりは行政、とりわけ市町村の行政における役割の中でも、研修事業にスポットを当てての意見交換。

(委員)

コミュニティ・スクール(CS)と地域学校協働活動とを一体的にとあるが、私は、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的と捉えており、そのように考えて発言させていただく。研修について、呼ばれて行く機会があり、南国市には今年も行っている。資料には載っていないが、夏に宿毛市、今月の下旬は安芸市に行く。載っていないが、研修を行っているところはある。宿毛市とか安芸市は、研修を行っている学校はあるが、他の学校に広がっていくなかで、CSが何なのか、皆が分からない。だから話を聞きたいと

いうことで呼ばれる。特に学校現場におられる方にとっては、何か新しいことを言われて、これをやらないといけないのかという発想なのだが、そうではなく、今行っていることを広げればいいと伝えたら、少し荷が軽くなり、取り組みやすくなると思う。新しいことを求められていると思うと、「勘弁してほしい」となるが、私はそうではないと伝えている。すでに、地域学校協働本部事業をやっており、高知県の場合はこの学校にも「開かれた学校推進委員会」がある。「開かれた学校推進委員会」を再編して学校運営協議会とすればできると説明したら理解していただける。それならできそうという話になるので、話の持って行き方もあるのではないかと思う。今年、来年は研修をやってもらいたいと思う。そういったニーズもあり、市町村はやろうとしていることから、県でバックアップしていったらいいと思う。

(委員)

スーパー校長先生が県内何校か回ってCSを作ってきた。今まではスーパー校長先生に頼っていた部分があったと思う。これから、質の向上を図っていくためには、スーパー校長先生に頼っていたら駄目である。この活動は社会教育だと思う。社会教育であるならば、社会教育法で「市町村に社会教育主事を置く」と謳われている。その2つ目には「社会教育主事補を置くことができる」と記載がある。最初に「主事を置く」となっているわけだから、市町村は置かなければいけないと思う。社会教育主事がこの問題を担当して、両方の一体化をやられたならば、上手くいくと思う。研修についても社会教育主事が研修を組み立てる。メインの研修を市町村なりの研修にするためには、社会教育主事が市町村に合う研修内容を設定する。このような継続的な活動を進めていく。継続的に進めていくためには、市町村は社会教育主事を入れて、やっていくことが正しい方法ではないかと思う。

(委員)

委員の意見はもっともなことだと思うが、現実的には子どもたちも地域の人達も保護者も、毎日生活している。その繋ぎ、これから先、方向性はそこであつたら各市町村のCSは、成立すると思うが、現状を見ると、両方の面でいかないといけない。市町村は社会教育主事、担当者の質の向上。そして、各学校は今やっているCSの現状で、満足していたら駄目だと思う。市町村がしっかり各学校の進捗状況を見ながら、共に話し合い、どれだけの手を差し伸べるか。そのように取り組むことで目的達成が進んでいく。学校の校長も、地域を巻き込んでどういうふうに変えていくのか意識しないといけない。認識は絶対必要である。市町村の担当者が「こうすればあの学校は素晴らしいものになるんだろうな」というものが見えてくるような支援をしていく。二刀流でいけば、CSは非常に効率的というか、素晴らしいものになると思う。1市町村から見ても各学校全部バラバラなので、一番上の方に合わせようとする、かなりの支援が必要。行政も見れば分かると思うので、それぞれの市町村で十分なCSの展開ができるように支援していくことが大切なことであると思う。だから、そのために担当者には、責任を持ってやってくださいという意識改革というのは、すごく必要。現実には、社会教育主事を置いている市町村はあまりない。担当者も異動があるので、認識させるには、県からも市町村の担当者に、構想図のようなものを全市町村に渡す。そこへ向けて、みんなで頑張ろうというところを支援していけばよい。

(委員)

私が関わっている学校も今更にはなるが、CSを導入していくということで、委員がおっしゃったよう

に、今までの活動を膨らませていけばよい。CS と恐れることなく、見守り活動、防災教育を地域の人と一緒にやることで十分である。コントロールは校長が行うので、地域としては心配することではない。今日の新聞記事を見て県民はどう思われたか分からないが、ほぼ100パーセントに近い形で進んではいく。進んではいくが、心配される人もいる。しかし、社会総動員で行っていかうということなので、無理はする必要はない。

(委員長)

今朝の新聞にも積極的なところがある半面、形骸化の心配もあるということが記載されていた。急速に増えた分、様々な学校運営協議会がこれから出現すると思うので、委員が言ったように、1つの市町村でも非常に多様だという状況を考えると、どこに照準を合わせてどんな支援をしていくかということが問われてくる。

(委員)

CS の制度は学校にはとても心強いし、子どもの生活が充実したものに発展すると思う。親育ちや子どもの発達の面、多様なものが社会の変化とともに出てきている。同じことを繰り返すのではなく、地域学校協働活動の中には民生委員・児童委員のような新たな枠ができ、当初始まった学校支援本部などとは違い、より深まった話し合いが学校と地域との間でできて、一人一人の子どもの豊かさを築けていける。一人一人が豊かになるということは、学校がしっかりと豊かになっていくということ。形だけではなく、何のためにあるのかを認識しながら頼ったり、相談したりしながら、一緒に地域の子どもを育て上げていく。市町村としては力強い制度だと私自身は感じている。

(委員長)

CS、学校運営協議会は何のために置くのか、何のために導入したのかという主旨を、きちんと確認し共有するということが、委員が冒頭で言われた、新しいことを始めるのではなくて、これまで通りで良いということも確認していく必要がある。そういった研修の機会を作っていくことが求められていると思われる。委員からの話では、学校を豊かにしていくということなので、ここをもう少し掘り下げて考えた方がいいポイントではないかと思うが、学校の豊かさとは何なのか。

(委員)

学校の総合的な学習は学校だけで考えてはいけないと思う。総合的な学習こそ、学校運営委員会で熟議をすべき。その際には、教職員も全員入ってみんなで熟議して意見を出し合ってアイデアを練ることを毎年行っているが、去年、熟議をするなかで黒岩の何を勉強したらいいのかという話が出た。この意見に対して、黒岩は戦国時代からの歴史があり、それを是非勉強していただきたいという意見が出た。今年、地域学校協働本部の事業の中で地域の方に入ってもらい、総合の授業で戦国の歴史を勉強した。校区に住んでいる学校の教員もいるかもしれないが、大抵の教員は校区外から通っており、地域のことを知らなかったりする。従って、学校運営協議会や地域学校協働本部で意見を出し合い、地域のことを学習するということは、すごく大事なことだと思う。子どもたちは地域の一員であり、将来、地域を担う人材になるので、色々な方の意見を取り入れていくことは意味があると思う。学校運営協議会で話したことを地域学校協

働本部で実現していく。地域学校協働本部を行う中で課題が出たら学校運営協議会に相談する。そのような取組が一体的なものだと思う。学校の負担が軽くなるし、豊かになる。今の学校の現状をいうと、「学校運営協議会を立ち上げろ」と押しつけて入っている所もある。私の所は、好きで行っているから良いのだが、他の学校では、「言われてしょうがなくやっている。」というような話を聞くこともある。難しい面もあるが、いかに早く成功事例を作るかというところだと思う。そのためには、軌道に乗るまで市町村の担当者が、積極的に関わることが大事だと思っている。最初の頃は、CSの事例もなかったので、毎回市町村の担当者に入ってもらっていたし、県内で3校しかなかった時代には、県教委の担当にも入ってもらっていた。軌道に乗れば、学校で自立できるだろうが、軌道に乗るまでは、色々な関わりで支援が要るのではないかと思う。佐川町の担当者が偉いなと思うのは、学校運営協議会に毎回来てくれている。学校運営協議会の担当であり、また、地域学校協働本部の担当でもある。夏の熟議にも参加してもらい、熟議も体験しているので、「こういったことをすれば広がっていくのかな」と思っていると思う。担当は他の学校にも行っており、『黒岩小学校、こんなのやっていたよ』といったことも紹介してくれているようで、こういった、市町村の役割もあるのではないかと思う。

(委員長)

委員はスーパー校長先生だと思うが、そんな委員も、市町村の担当者が学校運営協議会に参加してくれたことが心強さであったり、いろんな支援を受けたことがありがたかったという話だと思うが、具体的にどんな支援が一番心に残っているか。

(委員)

委員ではなく、オブザーバーとして会に参加し、黒岩小学校の学校運営協議会でどういう話が出ているのかを、知ってもらうだけで良い。担当者は他の学校運営協議会にも参加しており、『他の学校でこんな話もありましたよ』と話をしてくれていると思う。私が、いくつかの市町村で話をする中でよく聞かれるのが、「何年か先に統合があるので、統合が終わってから学校運営協議会を立ち上げる」ということがある。統合があるのであれば、どのような学校をつくるのかを相談することが、学校運営協議会の大きな役割である。統合をしてからではなく、統合前に、新しい統合校を見据えた学校運営協議会を立ち上げ、議論することが、一番ではないかという話をよくさせてもらっている。支援だけではなく形を作っていくのも、市町村の役割と思う。学校に任せたら『統合してからやりましょう』という話になる。そうではなく、どういう学校をつくるか、統合前に新しい統合校を見据えた学校運営協議会を立ち上げればいいんじゃないかということを市町村が言うべきではないかと思う。

(委員長)

統合後の解決のために、CSを保留というふうに捉えられがちだが、先にCSを作って、統合後のビジョンを考えるとということ。重要なご意見だと思う。

(委員)

私、4月以降は日高村の一住人として、自分の子どもがお世話になった学校には恩返しもしたいと思うし、色々なことでどんどん関わっていきたい思っている。今の黒岩小学校の周りにも、学校で何かしたい

ということがあれば協力するという人は沢山いる。そういう人を、いかに巻き込むかということが大事。学校の教員も、色んな学校の周りにはいる人を巻き込んでいく力をつけないといけないのだが、先ほども言ったように、学校の教員は色々な地域から異動してくる人が多いので、どのような人が地域にいるのか、そもそも知らないこともある。市町村役場の職員の方は、その地域に根ざした仕事をされているので、「学校のまわりにはこんな人がいる」とか、「こういう人に話を持っていったら上手くまとまるんじゃないか」といった提案がしやすいと思う。軌道にのせていくためには、市町村の担当が、そういった人を紹介するというのをどんどんしてもらったらいいいと思っている。

(委員)

我々市町村の担当職員は、地元の方と長い付き合いがあり、結構地域の方を知っているし、どういう方がどこにいるかは把握している。その方を学校に繋げていながら、一体的な取組を行っていくということを、改めてここで学ばせていただいたので、早速実践をしていきたいと思っている。

(委員)

高知市教育委員会の担当にお伺いしたいのだが、最初の基盤的部分を学校運営協議会で共有し、ベクトル合わせをすることに、かなり時間を割かれていたプロセスがあると思うが、担当と一緒にやってみて、今までとは違った感覚や、仕事の仕方などで何か気がついたことはあるか。

(高知市教育委員会)

1番は子どもの学びが中心にあり、CSも地域学校協働本部も子どもの学びというところを一番大事にしている。その子どもが学ぶために、学校、地域、保護者は子どもの学びにベクトルを合わせましょう、というところが、春野CSが一番大事にしているところなので、春野の目指す子ども像の作成というところを重要視されていた。協議(熟議)も大事で、それぞれが意見を出し話をする。幼稚園から小学校・中学校まである地域なので、15年間を一体的にストーリーを合わせていくところに一番時間をかけられていた。その方法をどの学校でもというのはハードルが高いと思うが、学校運営協議会で協議していく中で学校はこういう子どもを育てたい、地域ならこういう学びがあるという部分をどう見つけていくかが、鍵になると思う。鍵になる部分を自分が各学校に伝えていきたい。

(委員)

実際、担当として、今後どう動かないといけないかという具体が見えてきたということ。形骸化しないためには、大事だと思う。教育委員会として何を大事にして地域と保護者と学校とを繋がないといけないかを曖昧にしていると思う。具体を示すことが、市町村職員の人材育成の部分で大事になってきている。地域や地域の子どもの関心を持ってもらい、役場の中の関係部署と共有、連携していく。子どもからの意見を聞く時代なので、子どものニーズを踏まえ、把握して動いていかないと制度や事業に翻弄されて、また形骸化していくということは目に見えている。

(委員)

高知市のある地区は、生活困難な地域なのだが、地域に連合会が発足している。CSとは違うかもしれ

ないが、地域が結束している。何年前からかは記憶していないが結束してこの構図が生まれている。学校、地域、家庭、行政が年に2回集まり、地域のために、どのような子どもを育てるか、私たちができることは何なのか、地域でいうならば支援センターや保育園、幼稚園など色々なところが集まって協議をしている最中である。更に掘り下げていくと、資料14ページにある、高知市の食育推進支援事業の中で、〇〇地区一部連合会という記載があるが、この裏側には家庭困難がある。毎朝、家族と一緒に食事をしていないご家庭が何件もあることから、支援事業を取り入れて行っている活動がある。いるかひろばには、色々なところから相談がある。全てを一緒にして言うことはできないが、これまでの育ちがあり、色々なことを抱えての生活がある。お父さんやお母さんも幼い時から、困り事を抱えている。そのような経緯もあり、自身が高知家の親育ちを応援する学習プログラム講座に応募し、ファシリテーターになっているので、相談の要請をしていただき、縁があり話をする。家庭に困難がある人たちは子育て支援センター、幼稚園、保育園に行き、その子どもたちが小学校に行く。でも、今、学校の先生は学校での関わりしか把握していない。しかし、私は地域で繋がっている。その地域での声を届けるのが私の役目だと思って、毎回現場の声を届けている。形から入るのではなく、メンバーの中でしんどい人がいるということを経験することは、実はファシリテーターであったり、支援センターの役目であったりするのではないかと思う。現場の声を取り入れながら、いろんな協議をして必要な研修を増やしていき、仲間をたくさん広げていきたい。

(委員長)

市町村行政と担当者が、いかに前向きな気持ちで仕事をしていけばよいのか。畑違いの部署から異動した時に、何をどうしたらいいのか分からない状況というのもあったりする。市町村の担当者にはものすごい期待がかかり、重圧もあるかと思う。また、役所の組織の文化や風土によるのかもしれないが、基本的には庁舎の中で仕事をしなさいというところだと、なかなか外に出て行くことが、組織的に許されなかったり、そういう発想が担当者として生まれなかったりということもあると思う。委員がおっしゃったように、現場にとにかくぶつかっていき、色々なものを吸収し、学校運営協議会や地域学校協働本部に反映させられるような姿が担当者があるべき姿なのかとは思うが、どうしていったら良いか。

(委員)

高知市教育委員会の担当の話を聞き、最初わからなかったがOJTを行い自分の役割がわかってきた。自分が高知市を何とかしなければいけないという思いが出てきたということがあったと思う。他の地域ではどんな課題があるのかを聞かないと目指す姿は見えないということを実感したと思う。高知市の事例が成功事例だと思う。地域と学校と、それから保護者と子どもを繋ぐ役割があるということが高知市の事例からも見えてくる。役割を言語化していく作業があり、地域の実情にあわせた「何を」担当として人材育成していくのかということに繋がってくると思う。ヒアリングしていく中で見えてきたことを、我々は人材育成のプログラムに組んでいき、担当者をどう育てていくかということになっていく。国の新施策もあるが、現場と繋がらない。地域の実情があるからこそ、「こんな施策というのがマッチングして使えて事業化できるな」となる。CSは作るで良いが、国の施策と地域の実情が、乖離してわからなくなっていると思う。どのように繋げていくのかという作業が、これから要ると思う。そこが明確になれば、研修の内容は見えてくると思う。担当が動いている成功事例はいくつかある。成功事例の具体例をヒアリ

ングし、取り組んでいくやり方は必要だと思う。

(委員)

高知市教育委員会の担当が言われたように、子どもを豊かにする。子どもの全てにおいて向上させる為に、CS というのはある。子どもを救いだしたり、その子を守ってあげたり、それからその子がより良く育つための生き方ができなかつたりすることを、委員のメンバー一人一人の力を借り、考えを出していき、進めていく。それが、今のCSのあるおかげでそういった子どもが一人一人伸びていくことが1つの成功事例。成功事例は何かというと、例えば福祉が必要な方がいたら、そこに福祉の人を繋いでくれる人。民生委員等色々いる。そこから深まっていき、家庭や子どもを応援していくことで、学校での就学がより良いものになり、子どもは学校生活を楽しめる。最終的に目指すところは何なのか、いうところを明確にし、多様な人との関わりを通して、子ども一人一人を育てていく。そしてその学校が、すごくみんなが頑張っただけでより良い学校運営ができるというのがCSと私は思っているので、そういう方向性にしないと、学校だけのことをする昔と違い、学校の校長先生だけが運営することは苦しいと私は思う。それより、地域の人や有識者の意見を聞いて、多様な意見の中から選択をする、その校長先生の生き方も一つだと思う。CSの形を伝えながら、こんなものを目指していきましょうと伝えていく。また、学校で一人で頑張るのではなく、みんなで子どもを育てていく。まずは難しい言葉ではなく、こういう組織があり、組織をどのように移行し、このように動いていくということを説明すれば、研修の内容としても理解していただける。成功事例の講義を受けるよりも、具体的には方向性を示すことだと思う。先程、岩手県遠野市のビジョンを事例として示していただいたが、市町村からしてみると、ビジョンの1番目「教育長のリーダーシップ」が良いと思う。2番目「コーディネーターが学校の一員」とあるが、学校の一員ということはかなり厳しい。今、部活動が学校に入ってくるだけでもかなり検討している。研修に組み込むことは素晴らしいと思うが、ここに到るまでは遠野市もかなり熱心にやられているのではないかと思う。高知県内の市町村の90パーセントがCSを行ってくれているというのは、先ず第一の喜び。その中で、どういった施策が必要かということは委員のみなさんがおっしゃるように、こういう形があるということを広めること。そこから評価をしながらPDCAサイクルを回し少しずつ、少しずつ積み上げていく。一気に上に上がることは容易ではないと思うので、最初と最後のビジョンを校長が持ちながら、このCSを実施していく。

(委員)

役割として役場の職員自体の質が問われていると思う。役割、施策、事業がきた時にそれをどう捉えてどう地域に反映させるかを、そこまで深掘りして、という思考が本当にあるだろうかというのが私の疑問である。具体的に取り組んでいく中で、担当の人が育ち、地域に広げていくという役割、繋ぐ役割があるというところが分からないと、できない。県教育委員会から下りてきたからやらないといけないというのが市町村の現状だと思う。何の為に取り組んでいるのか担当の腑に落ちるまでに、人の意見の聞き方、集約の仕方そして学校とを繋いでいくためにはこういう合議が必要ということを実際に感じ取っていく中で、担当は育っていくと思うので、そういう部分が、今、必要ではないかと思う。

(委員長)

具体的には、どうイメージするかということだと思うのだが、国から、あるいは県から新規事業をし

てくださいと頼まれた時に、そのまま地域の人に話をしても通じないと思うので翻訳をして、地域の現場の状況に当てはまるような形に少しアレンジしたり、解釈して示さなくてはならないと思うが、その役場職員の力が、委員は弱体化しているのではないかというご指摘だが、日高村の現状としてはどうか。

(委員)

担当となり今年で2年目だが、前任からの仕事の引継ぎの際、丁寧に説明してもらったが、自分の中で解りきっていなかった。CS、地域学校協働活動、それぞれ説明は聞いたがその先にあるものをあまり分かってなかった。こういった推進委員会や、地域学校協働活動等の研修会にも参加して、やっと理解してきたのが2年目である。また、各校の学校運営協議会にも全て参加し、学校の実情や課題、地域の課題も把握しているつもりではいたが、いざ、実践してそこに落とし込んで何かできたかという、あまりできていないのではないかと認識させられた。

市町村担当は早い人で2、3年で異動していく。例えば今、私が2年目でなんとなく分かってきて次の3年目で実行に移しながらと考えている時に、異動してしまうということが組織の体制的に弱い所ではあると思う。研修会は大事だと思うので、研修会を通して学び、繋がり、また学んでいく。担当者同士で学んでいく機会を与えてもらうのはすごく大事になってくると思う。コロナ禍ということもあり、なかなかそれができなかったこの2年間だったと思う。もう少し早い時期に、担当者同士が、推進委員の方々に出会っていれば、もう少し学びがあり、更にステップアップでき、活動できたのではないかと感じている。今回、いろんなご意見を聞く中で、この場を通して学びになったので、良い機会を与えていただいていると思っている。

(委員)

2008年の学校支援地域本部事業から私もこの推進委員のメンバーとしてやらせていただいている。文科省から50億円の予算が下りてきて、当時その事業で広めていた青森県の高橋先生から直接聞いたことがあるのだが、『この事業はもう止められなくなるよ。』とおっしゃったのをよく覚えている。つまり、あれから学校支援地域本部事業は止められない事業になってしまっている。そこが今、CSと一体、私は一緒だと思っているのですが、進んでいく中で、前回から敢えてそもそも論を言わせてもらっている。2年前の6月にCS在り方検討会というのが文科省で行われている。その中のまとめとして、「各学校には若い社会教育主事を置いたらどうか」という提案がある。ただ、何回も社会教育主事と言ってるわけだが、我々はここから更に長い期間、止めることができない事業なので、ロングタームで見ないといけない。ロングタームで社会教育主事を育てていかなければいけないし、社会教育主事を増やしていかなければならない。去年の6月に北海道の社会教育セミナーで90分間話をさせてもらったのだが、その時点で北海道は社会教育士が300人いた。この数字が、これから5年、10年先で絶対効いてくると思った。社会教育主事、社会教育士を育てるには時間がかかるが、並行にやっていると、長い目で見たら大きな差がでてくる。都道府県で競争しているわけではないが、止められない事業だと覚悟して社会教育主事、社会教育士を育てて、各自治体に張りつけてもらいたいし、担当としてCSと協働本部をみていただきたい。

(委員長)

私も、社会教育主事や社会教育士の育成に携わっているので、言いたいことを委員に代弁してもらって

恐縮である。養成をしても、活躍できる場がないのが悩みである。興味を持つ学生も少なからずおり、社会教育主事講習を開けば、たくさんの受講者がいるが、講習を修了したあと、どうなっているかというところ、資格を取ったはいいけど、すぐ人事異動で社会教育とは異なる部署へ異動してしまうということがある。また、大学生からすると、なかなか社会教育の仕事がないという現状がある。委員が言われたように、学校に社会教育士を配置するというのは、私もひとつ、希望ではないかなと思っており、委員にも受講いただいた昨年度の社会教育主事講習では、学校事務職員の方が講習に参加されていた。今まででは考えられない、見られないことだったが、学校事務職員の方が社会教育士の称号を取られている。まさに学校運営協議会や地域学校協働本部で活躍されるというような事例が、もっと出てくるといいのではないかと高知市の担当と話をしており、高知市の推進委員会では来年度、もしかしたら学校事務職員の活動にスポットを当てた検討を行うかもしれない、という話をしている。

(委員)

佐川町の担当は役場の新採職員だが前任者がいるので前任者に色々聞いていたと思うが、現場を見ないとわからないので、学校運営協議会に参加してもらったり、色々なことで足を運んでもらったりして、沢山勉強してもらっている。担当者からは、いつも様々な質問がある。その質問に答えてあげる。市町村の中ではもがきながらも頑張っている人は多いと思う。それをサポートするのが県の仕事だと思う。県がいかに市町村をサポートするかということが大事ではないかなと思うのだが、県教委はちゃんとサポートできているのかと見ると、申し訳ないが、私からしてみたら疑問。私は国の仕事もしており、国の人と話をしているなかで、『高知県は動きが悪い』と言われる。要するに県として、市町村のサポートがあまりできてないと、国は感じている。その辺りを考えてほしいと思っている。

(生涯学習課)

地域学校協働本部については、ほぼ全ての学校で設置され、後を追うような形で合わせて学校運営協議会ができている。一体化という当然のところがあるが、今、途上だということは、ご理解いただきたい。理想のところは、委員がおっしゃるとおり、目指していかないかなければいけないが、まず、両方あるところがしっかりと一体的に活動できる形にしていく必要があると考えている。最初に説明もさせていただいたが、本部による実質的な差がある。実質的な差があることに対して、具体的に何かできているのかと見たときに、明確に現れるようなものはない。説明させていただいた研修内容の見直しをさせていただき、一定は取り組んできたところではあるが、もう少し分かるような形のものが何かないかということもあったので、委員会のほうで、議題にもさせていただいて、考えもいただきたい思いもあり、今回お話をさせていただいた。社会教育主事について、委員長に大変お世話になっており、昨年度高知大学で開催し、昨年度の時点では、全市町村の6割近い市町村で一定配置した状況ではあったが、お話にもあったように、その後、人事異動で異動になっている職員もいる。裏を返せば、非常に社会教育主事の講習の内容が良いということなのかもしれないが、育成された市町村の職員が、福祉に移って活躍するという事例もあるので、今社会教育士として名乗って活動するかどうかは別として、どの市町村も当然地域に密接に関わって仕事をしているので、知識については次で生かせる。一方で我々の課題としては、何度も委員が言われているように、社会教育主事をできるだけ多くの市町村にしっかり配置していただきたいという依頼を、引き続きしていかないといけないと思う。令和7年度、社会教育主事講習を高知県で行う順番になる

と思うので、その際にはできるだけ多くの市町村に受講していただき、色々な取組もしていかなければいけないと考えている。県外まで行って研修を受講することは、委員が実感されているとおり、市町村予算が厳しい中で、長期にわたって、宿泊するというのはなかなか予算措置も難しいかと思うので、県内での研修を通して促進をしていきたいと思っている。全体的には、学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進ということで、今日話を聞いていて少し考えたのは、我々が事業ベースで先に進んできたところはあるが、今までは少し学校から離れた距離で我々が進めてきたと思う。これからは学校長だけに頼るわけではないが、学校長のマネジメントの中で学校運営協議会というものを中心に据えて考えていただき、その上で本部事業と一体的に推進していく、ということが必要になってくるかと思う。市町村教育委員会連合会にも参加し、話もさせてもらうが、教育長も教員出身の方もいれば、行政出身の方もいる。様々な方がいる中で、やはり、まだ学校運営協議会も、地域学校協働本部も、皆様が同じレベルで、教育長にご理解いただいているわけではないと感じている。県教委の立場からいけば、先ず教育長の方々、トップへの理解を深めていく必要があると思うので、そこは今後も一層頑張っていかなければならないと、改めてここ1年半くらいの経験で感じており、引き続き取り組んでいく必要がある。そのためにも、ハンドブックや事例集、高知県版地域学校協働本部もしっかりと周知して広げていきたいと思っている。直ちには学校運営協議会と地域学校協働活動本部事業の一体的推進が、県内全ての学校で進んでいくとは言い難いが、そこに向けて努力はしていきたいと考えている。

最後に、委員からあった、文部科学省の話になるが、県が市町村をサポートできているのかどうかというところは、先ほどの話からいけば、市町村の教育委員会の中で教育長が理解したうえで、その他の教育委員、担当者なり社会教育主事が理解したうえでやっていただいているのかということ、少し弱い部分が正直あったと思う。教育長がどれだけ関わるかというのは、温度差があり、学校も色々な課題があると思うので、仕方ないのかなと思う。少なくとも小中学校ではこういう取組を行っているということを理解いただいたうえで、担当者に、先ずは県の研修会に参加していただくということを進めていきたいと思っている。サポートという面では、こちらに並んでいる教育事務所の各担当に日々、市町村教育委員会や学校を回っていただいているので、かなり充実している。島根県は、生涯学習センター（教育事務所）みたいなところに社会教育主事が複数おり、配置してやっている。それから比べると、劣るということはあるかもしれないが、かなり積極的に動いていただいていると考えている。文部科学省の方には、我々の伝え方不足もあるし、教育長からその市町村教育委員会への伝え方というのも、まだまだ工夫するところがあるので、その辺を合わせて、一緒に考えていきたいという思う。今日の見解も踏まえ、研修の構えかたや内容などはしっかり、できることとして考えていきたいと思っている。

（委員長）

本日の協議は、非常に多岐にわたっていたが、テーマに即してまとめさせていただく。CSと地域学校協働本部の一体的推進に向けてという点では、一点目は「子どもの学び」である。学校のカリキュラムにはないような地域の学びを、より豊かにしていくところが、学校運営に関わる色々な人達が共有できて、一緒に頑張っていこうというようなモチベーションアップに繋がる。そこには子どもの学びがまず、起点になる。二点目は、市町村担当者の人材育成である。時間をかけてゆっくり育つ環境を作っていくところが肝要なのかなと、皆様のご議論を聞いて感じた次第である。他にも重要なご指摘とかご発言が多々あったが、きちんとまとめすぎると、それらが漏れてしまいそうな気がするので、敢えて雑ば

くなまとめ方をさせていただく。

生涯学習課が今日の議論を踏まえて研修の見直しに着手されるというお話をされていたので、是非可能な範囲で反映していただけると幸いである。これにて協議の時間は閉じさせていただく。

以上をもって議事全部を終了、11時30分に閉会。